

民生協議会協議事項

〔 日時 令和4年1月21日(金)
議員全員協議会終了後
場所 第三委員会室 〕

○ 所管事項の報告について

- 1 日本海溝・千島海溝沿いで想定される巨大地震の被害想定について
- 2 八戸市津波避難計画改訂の進捗について
- 3 トンガ諸島付近の火山の大規模噴火に伴う潮位変化への対応について
- 4 令和3年八戸市の火災と救急・救助について

○ その他

日本海溝・千島海溝沿いで想定される巨大地震の被害想定について

1. これまでの経緯

- ・国では、平成27年2月に「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」を設置し、最大クラスの震度分布・津波高等の推計結果を令和2年4月に公表した。（当市の最大沿岸津波高26.1m）
- ・この震度分布・津波高等に基づき被害想定と防災対策を検討するため、令和2年4月に「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ」を設置し、これまで9回の会合を開催している（現在も継続中）。
- ・今般、被害想定を取りまとめたことから、令和3年12月21日に公表が行われたものである。

2. 被害想定目的

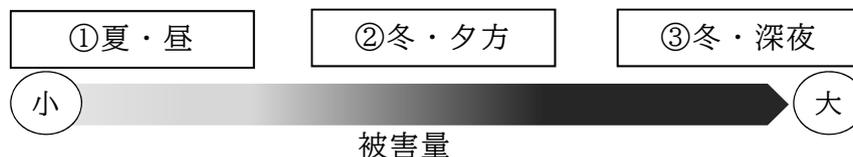
- ・被害の全体像及び被害規模を明らかにすることにより、防災対策の必要性を国民に周知するとともに、広域的な防災対策立案等の基礎資料とすることを目的としている。

3. 被害想定性格

- ・今回想定した日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震は、最新の科学的知見に基づく最大クラスの地震であり、発生頻度は極めて低いものの、仮に発生すれば広域にわたり甚大な被害が発生するものであるが、対策を講じれば被害量は大幅に減じることができるものである。
- ・今回の被害想定を踏まえ、巨大地震・津波が発生した際に起こりうる事象を冷静に受け止め、「正しく恐れる」ことが重要であり、行政のみならず、インフラ・ライフライン等の施設管理者、企業、地域及び個人が対応できるよう備えることが重要である。
- ・今回の想定はマクロ的な想定であり、道県単位による被害規模が示されたものであるが、今後、各道県において、地域の状況を踏まえたより詳細な被害想定が行われる予定である。（青森県においては令和4年度の出来るだけ早い時期に市町村毎の被害想定を取りまとめる予定）

4. 想定する地震の発生時期・時間帯

- ・想定される被害は、条件の異なる以下の3パターンで作成されており、「冬・深夜」が最も被害が大きくなる。



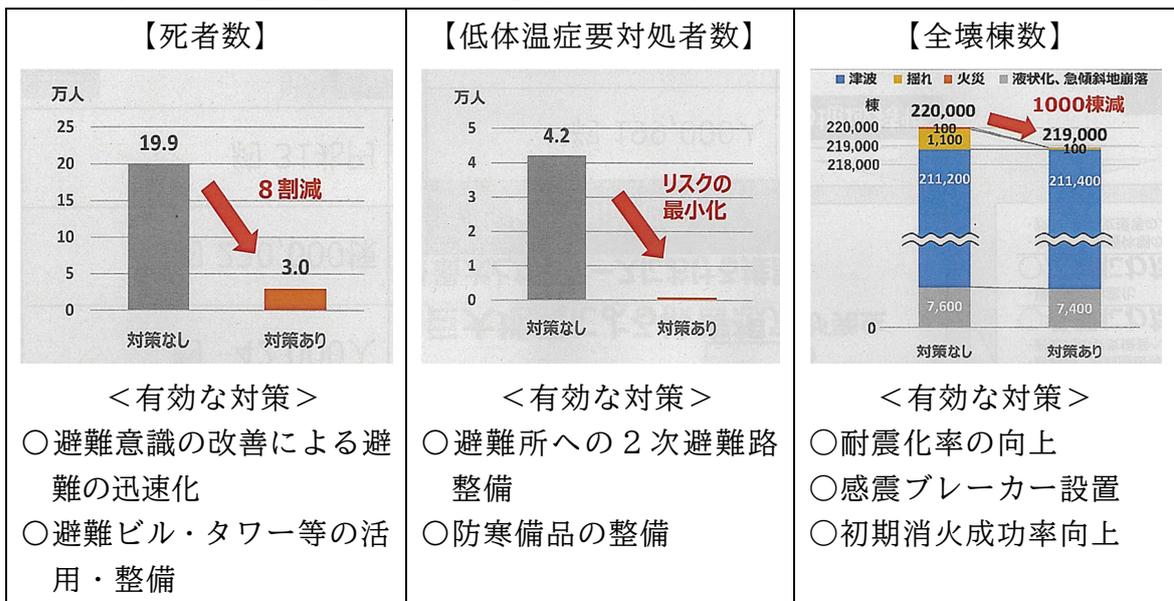
5. 主な被害想定結果

<被害が最大となるケースにおける推計値>

推計項目	日本海溝地震 (全体)	青森県
死者数 (冬・深夜・早期避難率が低い)	最大約 199,000 人	最大約 41,000 人
低体温症要対処者数 (冬・深夜・早期避難率が低い)	最大約 42,000 人	最大約 2,500 人
全壊棟数 (冬・夕方)	最大約 220,000 棟	最大約 65,000 棟

6. 防災対策の効果

・国は減災対策と避難意識の向上で死者を8割減らせるとしている。



7. 今後の動き

国	<ul style="list-style-type: none"> ・予防対策、応急対策、復旧・復興対策を含めた防災対策の取りまとめ(令和3年度中の予定) ・地震・津波対策を強化する特別措置法の改正(令和4年度～)
県	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況を踏まえたより詳細な被害想定を作成(令和4年度～)
市	<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難計画やハザードマップの改訂(令和3年度～) ・津波避難誘導標識の整備(令和4年度～) ・津波避難ビルや避難タワー、避難路の整備検討(令和4年度～) 等

日本海溝・千島海溝沿いで想定される巨大地震の被害想定

		死者数（人） （早期避難率低）				合計	低体温症 要対処者	全壊棟数（棟）					
		建物 倒壊	津波	急傾斜 地崩壊	火災		（人） 早期避難率低	揺れ	液状化	津波	急傾斜 地崩壊	火災	合計
日本海溝モデル （冬・深夜）	北海道	—	137,000	—	—	137,000	19,000	—	800	118,000	—	—	119,000
	青森	30	41,000	—	—	41,000	2,500	600	3,300	61,000	30	10	65,000
	岩手	20	11,000	20	—	11,000	14,000	400	500	17,000	200	10	18,000
	宮城	10	8,500	—	—	8,500	6,500	100	2,700	14,000	40	10	17,000
	秋田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	90
	山形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	福島	—	800	—	—	800	50	—	—	800	—	—	800
	茨城	—	600	—	—	600	—	—	—	600	—	—	600
	千葉	—	100	—	—	100	—	—	—	100	—	—	100
合計	60	199,000	20	0	199,000	42,000	1,100	7,400	211,000	300	30	220,000	
千島海溝モデル （冬・深夜）	北海道	70	85,000	10	30	85,000	14,700	1,700	1,600	51,000	70	700	55,000
	青森	—	7,500	—	—	7,500	1,100	—	—	15,000	—	—	15,000
	岩手	—	2,800	—	—	2,800	2,200	—	—	3,700	—	—	3,700
	宮城	—	4,500	—	—	4,500	3,900	—	—	7,000	—	—	7,000
	秋田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	山形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	福島	—	200	—	—	200	20	—	—	200	—	—	200
	茨城	—	80	—	—	80	—	—	—	70	—	—	70
	千葉	—	70	—	—	70	—	—	—	80	—	—	80
合計	70	100,000	10	30	100,000	22,000	1,700	1,600	77,000	70	700	81,000	

※この表は、内閣府が令和3年12月21日に公表した資料から抜粋して八戸市防災危機管理課が作成した。
※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。—はわずか。

八戸市津波避難計画改訂の進捗について

1. 計画の目的

津波対策の推進に関する法律に基づき、津波から命を守るため、迅速かつ円滑に避難することを念頭に、ソフト面の津波対策である避難対象地域、避難場所及び避難路の指定、津波警報等の情報収集・伝達の手順、避難指示の発令等について定めるものである。

2. これまでの経緯

- ・ 国では、令和2年4月に「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」における震度分布・津波高等の推計結果を公表した。
- ・ 県では、これを受けて、津波の浸水シミュレーションを実施し、令和3年5月に青森県津波浸水想定（以下、「新たな想定」という。）を設定・公表した。
- ・ 市では、今年度、県が公表した新たな想定を踏まえて「八戸市津波避難計画」の改訂に取り組んでいる。

3. 見直しを要する項目

項目	内容・理由
(1)津波浸水想定区域	新たな想定 of 浸水域の拡大に伴い、範囲が拡大
(2)避難対象地域	津波浸水想定区域の拡大に伴い、範囲が拡大
(3)津波到達予想時間等の想定	・ 第一波の到着時間は、全ての代表地点で早くなる。 ・ 最大波の津波水位は、4地点（北沼、豊洲、新湊、鮫・白銀）で高くなる。 ・ 津波影響開始時間は、1地点（法師浜）で早くなる。
(4)避難困難地域	津波到達予想時間が早くなり、避難対象地域の拡大に伴い範囲が拡大
(5)避難目標地点	避難対象地域の拡大を踏まえて再設定
(6)避難路	距離の延長
(7)避難所までの主要経路	避難目標地点の再設定に伴い、その地点に至る主要な道路を再設定
(8)初動に開設する指定避難所	避難対象地域の拡大を踏まえて再設定
(9)津波避難ビル	津波浸水深が高くなることを踏まえ、使用の可否を再検討

4. 今後のスケジュール

令和4年1月

第1次改訂（案）作成

1月～3月

住民説明会（18回予定）
事業者説明会（7回予定）
有識者意見聴取（2回予定）
庁内連絡会

3月

第2次改訂（案）作成

5月

パブリックコメント

6月

最終改訂（案）作成

7月

改訂・公表

5. 住民説明会等

第1次改訂（案）を作成したことから、その内容について、令和4年1月24日（月）以降、避難対象地域内の住民や関係事業者を対象とした説明会を実施する。

対象地区：18地区（市川、根岸、下長、上長、三八城・沼館・城下、根城、田面木、館、江陽、小中野、柏崎、吹上、是川、大館、湊、白銀、鮫、南浜）

トンガ諸島付近の火山の大規模噴火に伴う潮位変化への対応について

1 火山噴火の状況

1月15日（土）13時頃（日本時間）、トンガ諸島付近のフンガ・トンガーフンガ・ハアパイ火山が噴火

2 津波警報等

1月16日（日） 0:15 津波注意報発表（青森県太平洋沿岸）
14:00 津波注意報解除（全ての沿岸で解除）

3 津波の状況（八戸港）

第1波到達時刻 1月15日 21:10
最大波の高さ 0.6m（1月16日 2:35）

【参考】

八戸港の満潮時刻 1月16日 3:56、13:31
近隣地域状況
・久慈港 : 1.1m（1月16日 2:26）
・石巻市鮎川 : 0.7m（1月16日 2:11）
・むつ市関根浜 : 0.3m（1月16日 2:55）

4 対応状況

(1) 初動体制

1月16日 0:15 災害連絡本部設置（警戒配備）
14:00 災害連絡本部廃止

(2) 避難所の開設

- ・ 注意報発表後、6箇所の指定避難所（多賀小学校、小中野公民館、湊公民館、白銀公民館、鮫公民館、津波防災センター）を順次開設。5:00には最大で5箇所16名の市民が避難した。
- ・ 注意報解除後、避難者の退去を確認し、14:44に全避難所を閉鎖。

(3) 市民への周知

- ・ 防災行政無線
注意報発表と同時にJ-ALERTが自動起動し、市内全域で注意喚起。
沿岸部に1:17と1:50に避難指示を放送。以後、注意報解除まで1時間間隔で放送。
- ・ エリアメール 1:15に避難指示を発信
- ・ ほっとスルメールで避難指示、避難所開設を周知

(4) その他

- ・ 公共施設 沿岸地域の5施設を休館（蕪島休憩所、蕪島物産販売施設かぶーにゃ、八戸市水産科学館マリエント、種差海岸休憩所、種差海岸インフォメーションセンター（環境省所管））
- ・ 交通機関 JR八戸線 始発より上下線で運転見合わせ
→15時「八戸～鮫駅間」運転再開
フェリー 八戸港、苫小牧港への入港見合わせ → 15時40分入港再開

令和3年八戸市の火災と救急・救助

1 火災概況

(1) 発生状況

令和3年における火災の発生状況は、総火災件数が65件で、前年に比べ6件の増加となっている。火災種別でみると、建物火災43件(前年比10件増)、車両火災6件(同同数)、林野火災3件(同3件減)、船舶火災なく(同1件減)、その他の火災13件(同同数)である。火災による死者は7人(前年比7人増)、負傷者は25人(同8人増)である。り災世帯は44世帯(同23世帯増)、り災人員は93人(同54人増)、焼損棟数は66棟(同11棟増)である。

△印は減少

区 分		年 別	令和3年 (A)	令和2年 (B)	増 減 (A)－(B)
火災件数	合 計		65	59	6
	建 物		43	33	10
	車 両		6	6	
	林 野		3	6	△ 3
	船 舶			1	△ 1
	航 空 機				
	そ の 他		13	13	
死 者		7		7	
負 傷 者		25	17	8	
り 災	世 帯		44	21	23
	人 員		93	39	54
焼損棟数	合 計		66	55	11
	全 焼		19	22	△ 3
	半 焼		5	1	4
	部 分 焼		24	15	9
	ぼ や		18	17	1

(2) 出火原因

出火原因別でみると、第1位が「放火」で9件、第2位が「ストーブ」、「たき火」で各5件、第4位が「たばこ」で4件となっている。

△印は減少

順位	年 別		令和3年 (A)	令和2年 (B)	増 減 (A)－(B)
	原 因	合 計	65	59	6
1	放 火		9	6	3
2	ス ト ー ブ		5	9	△ 4
	た き 火		5	6	△ 1
4	た ば こ		4	5	△ 1
5	配線器具		3	3	
	電灯・電話等の配線		3	3	
7	こ ん ろ		2	3	△ 1
	灯 火		2	2	
	マ ッ チ ・ ラ イ タ ー		1	3	△ 2
	放 火 の 疑 い			4	△ 4
	そ の 他		27	17	10
	不 明		4	4	

※ 上表の区分に記載されていない原因は、その他に含む。

2 救急概況

令和3年における救急出動は8,929件で、前年に比べ143件の増加、医療機関への搬送人員は8,283人で50人の増加となっている。一日の平均出動件数は24.5回、58.9分に1回の割合で出動したことになる。

事故種別の出動件数で最も多いのは、急病の6,279件(前年比202件増)で、次いで一般負傷1,057件(同29件増)、転院搬送768件(同52件減)、交通事故427件(同45件減)となっている。

覚知から現場到着までに要した平均時間は9.8分、覚知から医療機関収容までに要した平均時間は37.8分である。

△印は減少

種別	出動件数			搬送人員			
	令和3年 (A)	令和2年 (B)	増減 (A)-(B)	令和3年 (A)	令和2年 (B)	増減 (A)-(B)	
合計	8,929	8,786	143	8,283	8,233	50	
急病	6,279	6,077	202	5,810	5,704	106	
一般負傷	1,057	1,028	29	1,001	973	28	
交通事故	427	472	△ 45	424	473	△ 49	
自損行為	107	104	3	78	77	1	
労働災害	80	81	△ 1	80	81	△ 1	
運動競技	63	52	11	70	52	18	
火災	61	56	5	25	16	9	
加害	35	37	△ 2	28	30	△ 2	
水難事故	12	11	1	1	6	△ 5	
自然災害	1	3	△ 2	1	3	△ 2	
その他	転院搬送	768	820	△ 52	764	816	△ 52
	医師搬送	15	22	△ 7			
	資器材等輸送		3	△ 3			
	その他	24	20	4	1	2	△ 1

(注)事故種別中「その他のその他」には、誤報・虚偽等を含む。

3 救助概況

令和3年における救助出動は45件で前年に比べ13件増加、救助人員は32人で前年に比べ14人の増加となっている。

事故種別で見ると、交通事故が17件(前年比1件増)、水難事故が12件(同6件増)、火災が6件(同5件増)、建物等による事故が3件(同同数)、機械による事故が2件(同1件増)、その他の事故が5件(同同数)となっている。

事故種別毎の救助人員は、交通事故が17人、水難事故が9人、建物等による事故が3人、機械による事故が1人、その他の事故が2人となっている。

△印は減少

種別	出動件数			救助人員		
	令和3年 (A)	令和2年 (B)	増減 (A)-(B)	令和3年 (A)	令和2年 (B)	増減 (A)-(B)
合計	45	32	13	32	18	14
交通事故	17	16	1	17	7	10
水難事故	12	6	6	9	5	4
火災	6	1	5		1	△ 1
建物等による事故	3	3		3	2	1
機械による事故	2	1	1	1	1	
ガス及び酸欠事故						
自然災害						
その他の事故	5	5		2	2	